

～平成23年度豊障連の行事～

第10回豊障連大会

6月11日(土) あいピア 参加者200名

豊障連創立 10 周年の記念大会となりました。東日本大震災を受け、「障害者を取りまく防災」について水谷真氏(AJU 自立の家)の被災地支援報告をお聞きしました。また、豊障連として日本障害フォーラム(JDF)に支援金を寄贈しました。被災地の復興を祈りつつ、自分たちひとりひとりができる事は何か、身近な問題として考え続けていきたいです。



さくらピアサマースクール

8月4日(木)・5日(金)/9(火)・10(水)
さくらピア 参加者160名

今年度は、午前中半日コースでの親子参加の講座形式で行いました。オープンスクール・音楽療法・ダンス・読み聞かせ・アートという内容で、参加者には全体的にとっても好評でした。たくさんのボランティアスタッフにも恵まれ、オープンスクールには、さくらピア近くのひまわり保育園の園児さんたちも参加、トントさんのパフォーマンスに大喜びでした。今後、さくらピアのスポーツ文化教室との兼合いも考えながら、運営方法、内容等をさらに充実させていくのが課題です。



納涼夏祭り

8月27日(日) さくらピア 参加者350名

昨年から設置された冷房のおかげで快適な夏祭りとなりました。例年通り青陵中や「豊通会」の皆さんにもボランティアとして参加いただき、諸々の準備に活躍していただきました。玄関前では、かき氷・チヂミを、ロビーではコーヒー・おにぎり・フランクフルト・綿菓子の模擬店が並び、体育館のバザー会場には多くの人だかりが来ていました。また、ゲームコーナーでは、「わたぼうし」の皆さんのご協力で、子供から大人まで大いにハッスルして楽しんでいました。フィナーレの盆踊りでは、太鼓クラブ「希望(のぞみ)」の太鼓に合わせて「豊定会」の踊り指導のもと、老若男女、車椅子の人達も二重、三重の輪になるほど盛りあがりました。さすがに会場も熱気に包まれ皆さん汗をかいて踊りました。ボランティアの皆さんのご協力に感謝しつつ、来年も更に多くの皆さんと共にこの夏祭りを楽しめることができますように。



さくらピア避難所体験

9月17日(土)・18日(日)

さくらピア 参加者277名

東日本大震災をうけて、実際の福祉避難所としての機能・備えという観点から、応急手当講習や避難訓練、水汲み訓練を実施しました。被災地視察報告では、被災障害者の生の声を聞き、避難所の具体的な中身や当事者が本当に必要な「配慮」についての話し合いが行われました。「住んでいる人(当事者)から住んでいる人(みんな)へ」伝えるべく、今回は校区自主防災会、学校等と連携し、避難所マニュアルの確認、情報交換を行っていきたいと思います。



ウェルネス 2011

10月10日(月・祝)豊橋市総合体育館

今年度も車いす体験コーナーで参加協力しました。毎年子ども連れの方が大勢訪れ、熱心に体験されていきます。午前中は、順番を待つ人で行列が絶えないほどでした。学校の福祉教室などで、身近に車いすの体験ができる機会も少しずつふえています。小さな経験を積み重ねて、たくさんの方が自然ないたわりの心を育んでもらえると嬉しいです。



第11回豊障連体育祭

10月23日(日)

さくらピア体育館 参加者250名

前日の準備時に降っていた雨はすっかり上がったものの、足場が悪いため、今年度は体育館での開催となりました。真新しく明るい床の上を駆け回る姿、大きな歓声と笑いが、体育館中に響きわたり、熱気が満ち満ちていました。毎年大好評のパン食い競争も、今年は120個と数を増やしましたが、パンのビニール袋の素材が高級すぎて、洗濯バサミからポトポト落ちてしまうというハプニングに見舞われました。それでもパンを啜えようと必死の形相の数々は、壁新聞の紙面をいつも賑わせてくれます。近隣校の小学生の参加も恒例となり、会員と交流する姿、準備片付を手伝う姿は、将来の頼もしい担い手を連想させてくれるものでした。このような啓発を今後もぜひ続けていきたいものです。



第11回豊障連さくらピア文化祭

11月20日(日) さくらピア 参加者500名

今回は、例年とは逆のエレベーター側に舞台を設置し、ビースプラウドの演奏で幕開けしました。その後もカラオケ、さをり織ファッションショーが盛大に行われました。また、恒例となりました豊聴協のみたらし団子、くすのき会のおにぎり、豊身協の豚汁、育成会の喫茶が賑わいをみせる中、今年が目玉「平松食品の佃煮コロッケ」は、形もかわいくて人気があり、好評でした。体育館では、バザー、各団体会員・文化教室の作品展示、体験コーナーに加えて、里芋の株の重さを触らずに予測するクイズに、みんな頭を悩ませていました。午後は、M.S.D キッズダンスの披露、ビンゴの歓声とため息、そして、お菓子投げで盛り上がりました。年々、近隣や一般の方の参加もふえており、障害者理解の一歩となることを大変嬉しく思います。来年も、さらににぎやかでユニークな企画で楽しい文化祭にしたいものです。



第6回ふくし体験発表会

12月10日(土) あいトピア 参加者200名

豊橋聾学校小学部、磯辺小学校、牟呂中学校、時習館高校の4校が参加し、日ごろ学んでいる福祉の勉強や体験、そして今年度は大きな震災もありましたので、防災に関することも交えて発表してくれました。アトラクションには車椅子漫才コンビ「ふんだり・けったり」が登場し、大変盛り上がりました。

6回目を迎えた「ふくし体験発表会」ですが、どの年の発表も素晴らしく、毎回感動しています。特にこの第6回では、聾学校と磯辺小学校の女の子たちが、いつの間にか自然と交流をしている姿が見られ、とても微笑ましかったです。そしてもっともっと多くの方に見に来て欲しいと、改めて感じました。



豊橋北ライオンズクラブ&豊障連ボウリング大会

1月22日(日) 岩屋キャノンボウル 参加者200名

今回で第7回目を迎えました毎年恒例の大会は、明るい冬晴れの日、北ライオンズ参加者約20名、豊障連参加者約140名、関係者約20名が集い、午前10時半から開催されました。当日は、「家族会」夏目さんの始球式を合図に、2ゲーム方式で熱戦が展開されました。例年、40レーン全てを貸し切りにして繰り広げられるゲームでは、終始、参加者の笑顔と歓声に包まれる中で、親睦も大いに深めることが出来ました。そしてゲーム終了後の表彰式では、鈴木公(いさお)北ライオンズクラブ「会長賞」を始めとした数多くの賞が用意され、28名の方が表彰をされたと同時に、参加者全員に「参加賞」も手渡されました。毎年、ご多忙の中を私たちのために北ライオンズクラブ様から「親睦の機会」と「沢山の善意」をお寄せいただけますことに、心よりの感謝を申し上げます。大会に参加をされました会員の皆様、来年の再会を楽しみに更なる1年の歩みを積み上げてまいりましょう。



ADF地域フォーラム

2月25日(土) あいトピア 参加者200名

豊橋で初めて「地域フォーラム」を愛知障害フォーラム(ADF)と共に開催しました。障害者自立支援法が今後どう変わるか、関心が持たれた企画でした。茨木尚子推進会議副会長より福祉部会の新法骨格提言と、2月8日厚労省による法案概要説明の基調報告がありました。この基調報告に対して、「65歳からの介護保険優先の問題点」等の意見・質疑が出されました。後半、地域課題として「精神医療・地域移行」「知的養護学校設立」「就労定着支援事業で感じた事」の発表がありました。豊橋以外からの来訪者も多く、会場を埋める参加者でしたが、休憩時間に帰られた方もあり、時間配分に課題を残しました。



3・11追悼セレモニー

3月11日(日) さくらピア 参加者250名

東日本大震災からちょうど1年のこの日、障害者の防災を考える集いが行われました。2時46分に全員で黙祷をし、「災害支援を体験して」と題して豊橋市保健所保健師の花井詠子さんのお話を伺いました。どんな形でもよいので、自分たちのできる支援を考えたいと思いました。そしてアトラクション。自閉症のパフォーマー「Yu&Kei」によるはらはらドキドキのジャグリングを楽しみ、「ウイング」による手話ライブにうっとり聞き惚れながらも、今も被災地で苦しむ人々のことを思いながらセレモニーは終了しました。ロビーでは東北の授産所製品を応援するバザー物産展が行われ、たくさんの方が立ち寄って下さいました。私たちはあの震災を忘れることなく、精一杯生きていかなければと思います。

豊橋市民生委員児童委員協議会と 豊障連との意見交換会

3月22日(木) さくらピア 参加者41名

今年で第8回目となる意見交換会でした。吉田方地区では要支援の障害者世帯が30件あるとのこと、幸地区では障害者・子どもを加えた催しのできたこと、芦原地区では集まりが6月に予定されている等、地域活動が昨年より少し活発化している様子が報告されました。山内進会長より、各校区民生委員に障害者情報を知らせてほしいとの話がありました。社協の松井事務局長より、防災は、自助をきちんと行うことが基本であり豊橋市広報でも多くの防災情報が得られること、今後は意見交換を地域で進めたらどうかとの話がありました。昨年より一歩内容の進んだ意見交換会でありました。

